

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4371200066		
法人名	社会福祉法人姫戸ひかり会		
事業所名	グループホームひかりの園ピハラー館		
所在地	熊本県上天草市松島町今泉1004-1		
自己評価作成日	令和7年3月3日	評価結果市町村受理日	令和7年4月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [jp/43/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_022\\_kihon=true&Jigyoo](http://jp/43/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&Jigyoo)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和7年3月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念「ピハラー」＝安らぎの場所の実現を目指しています。想い通りにならない人生のなかでどのような状態になろうとも安心してありのままの自分でいられる生活を目指しています。私たちは、老病死の苦しみや悩みを直視し、自らの問題として皆さんと共に歩みたいのです。そして、人としての思いやりや優しさ、生きることの厳しさ、悲しみ、そして喜びをみほとけの大悲のひかりの中に分かち合いたいと思います。かけがえのない一人の存在として受け入れられる人と人が自然に行われる生活の実現を願っています。また、一人一人の力を引き出した介助が出来るよう、「RX組の研修」や「動き出しは当事者からの研修」などへ参加しています。施設内での研修を取り入れたり、外部研修や講師を招いて、今まで培って来られた人生経験を大切にしたいその人らしさを目指し、ご入居者、ご家族から信頼されるグループホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小高い丘の法人施設一角にあるホームは、樹木や草花の開花、鳥の鳴き声など自然を満喫できる環境にある。敷地内の手入れが行き届き、訪問当日も桜の開花を入居者及び職員が楽しみに待たれていることが伝わってきた。法人代表者は地域福祉へ熱い志を持って様々な活動に取り組んでおり、職員もまた、室内で運動する事よりも「外に出て花を見ましようか～！」「畑の鍬入れをしましょうか～！」と働きかける事が入居者の意欲や楽しみに繋がっていることが「行こうかね～！」という返事からも伝わってくる。ツワの皮むきやよもぎ饅頭づくりなども入居者の手伝いから今後は主体的な活動になっていけばと語っており、その人らしく暮らせるホームとしての姿勢が伝わってくる。開設時から職員による旬を活かした手作り食は楽しみにしており、今後も入居者の育てた野菜や地域の専門店から届く食材などを活かした食事支援の継続に期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念に基づき、入居者の尊厳を大切に「その人がその人らしく生活が送れるよう」支援する。入居者、家族、地域とのより深い信頼関係が構築できるよう、面会時や広報誌でホームでの様子が分かるようにしている。	グループホームも法人の中の一つのユニットとして、全体で活動した後はそれぞれの所へ帰っていくといったパブリック活動を通して人と人が繋がる暮らしを支援している。ただ、強制はせず入居者自身が参加の可否を選択する等、あくまでも入居者の意向を尊重している。献立会議も入居者と一緒に行い、「自分たちが昼作るけん、夜は作って」等、頼もしい言葉も聞かれている。理念については毎年外部有識者による勉強会の機会がもたれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	秋ふえす等の行事を開催し、地域の方々に参加して頂いており交流が続いている。また、地域の行事、逆デイサービス、地域巡回バスでの買い物に出掛ける事で関係が続けられるようにしている。	法人行事「秋ふえす」はやわらかなひらがな表記とし、来訪者にも馴染みやすいものとしている。感染症等の状況を見て10月に開催し、地域の人々や小・中学校からも参加があり、異世代間交流を通じて入居者にとって何よりの一日となっている。ホームは地域と距離を置く場所ではあるが、法人行事への参加や地域資源を活用した買い物、別地に運営するデイサービスへの外出等、地域と関わる機会を作っている。法人内には入居者が主導する自治会があり、ホームの入居者も役員として活動している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	立地条件としては、地域住民が気軽に立ち寄ってもらえる環境ではないが、行事などで地域の住民や中学生などに来て頂くことで、知って頂ける場をつくっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で、入居者の状況、外出、外泊等の実績や様々な活動及び日常の様子を報告を行い、家族や行政、民生委員の方々に意見を伺い、サービスの向上に活かしている。	本年度の運営推進会議は1回のみ書面審議で対応しているが、他は対面により開催している。会場を法人及びホームとして、参加者はホーム内の位置関係や入居者の普段の姿を間近に見ながら参加している。2ヶ月毎の活動や事故報告、研修や医療支援等を説明し、身体拘束適正化委員会を会議の中で設置している。家族の参加も多く、実際に行政や地域の人々の意見に触れる事は重要であると捉え、参加できなかった家族へは議事録を送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域密着型担当者、地区民生委員に運営推進会議に参加して頂き、ケアサービスや取り組みの実践を報告している。また、施設での行事の際には地区民生員、地域住民、家族の参加があり、協力関係が続けられるよう取り組んでいる。	行政からは運営推進会議への参加によりホームの現状を発信し、相談事やアドバイスを受けながら良好な関係を継続している。事故報告等は電話で行い、現在認定調査時には担当者に玄関内で対応し、入居者のありのままの様子を見てもらうこととしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間計画として身体拘束防止の研修を実施しており、身体拘束防止の基本的な理解と対応方法について学ぶ機会を設け、全職員へマニュアルを配布し、意識向上に努めている。また、新人職員へは年2回の研修を実施している。	身体拘束や虐待防止について法人での研修により意識向上を図り、入居者の尊厳を守りながら様々な状況に応じて柔軟な発想と対応ができる職員の育成に努めている。入居者の転倒防止にセンサーマットを使っているが、家族への事前説明と了承のもとプランに入れて対応している。ホームには各マニュアルをまとめた冊子が整備しており、必要によって活用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間計画として高齢者虐待防止の研修を実施しており、高齢者虐待防止の基本的な理解と対応方法について学ぶ機会を設け、全職員へマニュアルを配布し、意識向上に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間計画として権利擁護の研修を実施しており、管理者より「権利擁護と命の尊厳」について学ぶ機会を設け、全職員へマニュアルを配布し、意識向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居時には、十分な説明を行い同意を得ており、疑問や不安に対して十分な説明を行い納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談や苦情窓口の担当職員を明確にしておき、入居者及び家族にその利用方法を文章と口頭で伝えている。ホーム内外の行事など入居者と家族が参加され、職員との交流の場を設け、関係作りを行い、運営推進会議などで様々な意見が出やすいようアプローチしている。	感染症等の影響もあり、従来の面会までには戻っていないが、職員は入居者の近況を伝えながら意見や要望を引き出すようにしている。ホーム周辺は四季折々の草木に囲まれ、「桜の時期にはまた一緒に外を歩きたい」などの言葉が聞かれている。毎週火曜日には入居者を交えて「朝の会」を開いており、その日の日課を伝えながら、入居者のしたい事も尋ねるようにしている。入居者は自身の思いをはっきりと伝えられており、「トイレをきれいにしておいて欲しい」との言葉に、後にそっと確認し清潔に使える状態にする等、出来ることにはすぐに応じるようにしている。	面会については状況を見ながら家族に居室に入ってもらえるようにしていきたいとしており、実現が期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はグループホーム会議の中で職員が意見を述べられる場を設けている。また、管理者と職員とが面談する機会もあり、意見を反映させている。	管理者は人材育成に力を入れており、法人の中で高齢者福祉に携わる次の世代を育てたいとしている。職員はチャレンジシートで自身の目標達成に向けて自己管理を行い、個別の面談の機会も設けられている。ホーム会議でケアへの疑問や気づきを提案し、業務改善につながる意見等が出されている。希望休や有休取得に応じ、風通しのよい職場環境に努めており、長年在職する職員が多いようである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事制度を導入しており、チャレンジシート（目標管理）を使用し、各自の目標に向けて、上司と相談しながら取り組める環境がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修については、年間事業計画に沿って、研修を実施しており、外部への研修や外部講師を招いての研修等を取り入れ、入居者への暮らしの支援などについて実践的な研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関係事業所の開催する研修への参加の場があり、お年寄りの視点に立ち「誰のため何のため」という意識を持ち、現場実践の見直しに取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望時、本人からは認知症による不安な事や要望を直接聞き取ることは困難なケースが多いので、日常的な会話の中から表情からくみ取り、入居時の移り替わることへの不安が少しでも軽減出来るよう歓迎会の開催や家族への面会の依頼を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実際に入居者の生活されている状況を見て頂き、不明や不安があれば、その都度説明を行う。また、入居後でも面会などで不安や要望を聞き取りながら、関係を気づいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、家族関係、地域との関り現在利用されている在宅サービス等の状況を踏えまた上で本当に必要とされているサービスは何かを見極め、入居のみではなく、在宅で過ごせる可能性を視野に入れ、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理や野菜づくりなど入居者へ教えて頂く環境を作り、暮らしの中では昔からの伝統行事（正月、お盆、彼岸など）や郷土料理など様々な知恵を頂きながら生活を共にしている。また、ホーム以外の行事として、地域行事の参加や入居者自治会がある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が気軽に訪問でき、訪問時には心地よく過ごせるよう積極的に取り組んでいる。感染防止の為、玄関での面会とはなっていますが、日頃の様子を報告しながら出来る限り家族だけで過ごせる時間を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会を通して地域の人たちが遊びに来られたり、立ち寄って頂けるよう取り組んでいる。また、同一敷地内で他のサービスを利用されている方々との出会いや友人、知人、地域住民との関係が途絶えないよう努めている。	入居者にとってホームの一日は掃除や洗濯、台所仕事に野菜作りといった在宅生活と変わらぬ日々を過ごされており、「体操要らず」といったユニークな言葉も職員から聞かれている。畑づくりには手早い動きで鍬打ちから始まり、苗の準備や草取りといった一連の流れも職員と一緒に受け持たれている。職員や入居者同士の関係も馴染みであり、職員は何でも言ってもらえる関係性を大切にしている。法人に出かけた入居者が知り合いに会うと話し込みながら時間をかけて帰って来られる様子は馴染みの関係そのものである。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の助け合う気持ちが自然な形で見受けられる。その会話や行動をさりげない形でサポートできるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も電話で様子を伺い、契約終了後もお互いに行き来しやすい雰囲気づくりに心掛け、継続的な関わりを大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者個々の家族構成、職歴、生活歴を把握しその人の思いを大切にしており、会話の中から要望をくみ取り、どの場面においてもその人のペースでその人らしく過ごして頂けるようケアプランを作成し支援している。	職員は入居者との普段の会話から思いを聞き取るようにしている。入居者も自身の言葉で思っていることを発言されており、職員は実現可能なことについては早期に対応するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その人らしい暮らしや尊厳を支えるため、本人にとって大切な経験や出来事などを含む生活歴を知ることが大切な事であり、家族本人との日常の会話の中から出来るだけ多くの事を知ることが出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の日常の状態を把握し、異常の早期発見、早期対応に努めている。毎日のバイタル測定で日々の変化に気を付けている。変化については、ケース記録に記載し、申し送りを通じて全職員へ伝達することで状況把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人ひとりとじっくり向き合い、その人らしい生活を送ることが出来るよう本人、家族に思いを聞き、介護計画を作成している。また、面会などで家族の意向を確認しながら反映している。	入居者の意向を優先し、家族や関係者の思いを収集してプランを立案している。入居者の食事作りや洗濯ものたたみ等「自分にできる事が続けられるので嬉しい」との思いには家事への関わりや、自宅のある地域でデイサービスを運営する法人施設へ週一回出向き、馴染みの人々との再開を喜ぶなど楽しみ事を継続する内容としている。自身の出来る事を増やすとする目的には入浴の洗身には不十分な箇所のみ手伝い、本人の力を引き出すような内容としている。モニタリングには担当職員を中心に職員意見が反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況については、ケース記録に記載している。それを基にスタッフの意見や思いを計画作成に取り入れるようにしている。状態変化があった場合は、ケア内容の変更を話し合いながら、職員間で情報共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームの入居者の住まいとして、既存に捉われないよう、地域行事等へ参加しており、在宅での暮らしの継続として、今までの関係が継続出来るよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区民生委員に運営推進会議に参加して頂いたり、地域の催しなどに出掛け、地域交流を図っている。また、入居者自治会の活動に参加したり、意欲的な生活が送れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望される医療機関を受診し、日頃より状態の変化に対しては報告を行い、急変時、夜間帯も迅速に対応している。また、医療機関へ受診することで、医師との連携が図りやすくなった。	本人・家族の希望する医療機関をかかりつけ医とし、協力医による訪問診療や職員による受診外出を支援している。専門医についても職員が対応しているが、症状によっては家族も同行している。受診結果で何かあればその都度家族へ報告されている。歯科については訪問診療による治療や口腔ケアの他、職員による受診外出も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	心身の変化や異常発生時に相談できるよう、看護師の配置や特養との医療連携体制を図り、指示や支援を受けている。また、必要に応じては、関係医療機関の医師に相談にのって頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時も医療機関へ足を運び、医師、看護師などと話をして状態把握に努めている。必要な時には、家族への同席も依頼し、施設側の思いや方向性を伝え、安心して頂けるよう対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の健康状態について、随時または面会時に家族へ連絡している。日々の様子についても、面会などの時に細かく伝え、家族の意向があれば聞き取り対応している。	入居の際看取りの指針をもとにホームの取組を伝える他、面会時等に日常の様子を伝えながら家族の意向を聞き取っている。現在は職員が連携を図りながらホームに出来得る支援に努めており、要介護3状態にあると母体をはじめ特養施設への声掛けが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修として、安全管理の研修があり、職員が適切な対応が出来るようにしている。また、マニュアルを配布し意識向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災時に迅速に的確な判断や対応が出来るよう年2回の防災訓練や防災体制研修を行っている。	今年度は5月と12月に防災訓練を実施しており、BCPに関する防災体制研修も行われている。特に居室内等のコンセントの埃は掃除の際、意識を持って確認している。	災害時の備蓄については主に本体施設で確保されており、今後はホームにもリストを供えておくことで家族等からの質問にも速やかに対応できると思われる。取組に期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年間事業計画に沿って、プライバシーの研修を行っており、入居者一人ひとりの生活歴、その人らしい暮らしや尊厳を支えるため職員間で共有している。	その方らしい暮らしを支援できるよう入居前の生活歴から把握したりその後も日頃の関わりから察し、職員間で気づきなどを共有している。尊厳やプライバシーに関する研修会の開催や日頃の支援の中で入室時のノックやプライバシーに配慮した排泄、入浴、同性介助等に努めている。写真掲載など個人情報については、本人や家族の了承を得て使用されている。身だしなみやおしゃれの支援については本人の希望を尊重し必要時にサポートしている。居室には櫛や使い慣れた化粧品が置かれ日々愛用されているようである。	髪のカットは専用の車両による訪問カットを支援している。今後も家族の意向などを聞きながら取り組まれることを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	朝の会を通して今日の日課を自分で決め、選択できる場を作りながら入居者の意向や思いを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の行動や会話のスピードに合わせて対応している。訴えがあった場合はゆっくり時間をかけ、話を聞き取り、納得されるまで向き合い対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床や入浴時など衣類を一緒に選び、その時に着たい物を選んで頂き、個性を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と一緒に料理し、旬の食材を取り入れたり、入居者の希望する献立を取り入れながら調理している。	献立は朝の会で材料を見たり入居者の希望を聞き決められている。生ものの提供は控えられことが多いが、ホームでは地域の鮮魚店からの配達により入居者に馴染みの刺身も主に行事などに準備され喜ばれている。また、畑の鍬打ちから収穫まで入居者も関わった野菜の活用や郷土料理(醤油味の押し包丁、ぶえん寿司、がね揚げ等)も楽しまれている。ツワの皮むきやよもぎ餅作りなど季節の活動を今は職員が入居者に手伝ってもらっているが、今後は入居者主体で取組めたら更に良いことなど職員の思いが聞かれた。	職員も同じものを摂ることで思いを共有し勤務の活力にもつながっている。調理担当者が入居者に「今日の料理はどうですか」と尋ねてまわる光景も食事の雰囲気や穏やかなものになっている。今後は、日頃のメニューなど食への取組を家族へ伝える事で安心や訪問時の会話の一つに繋がっていくと思われる。また、手作り食の継続に期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事記録を記載し把握している。食事量などは少ない場合は、個別の対応を行っている。また、状態に応じて管理栄養士などと相談しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔の衛生を日常的に支援している。食後は口腔ケアを行い、夜間は入れ歯洗浄剤を使用している。また、必要に応じて、歯科受診や往診で指導を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の排泄パターンを把握し、自立した排泄が出来るよう、行動を察知してさりげない誘導をしている。また、排泄チェック表に記録し、把握に努めている。	把握した排泄パターンを活用し自立の継続や表情やしぐさ等から察知し、必要な声掛け、誘導が行われている。日中はトイレでの排泄を基本とし、リハビリパンツをはかれる方もおられるが、殆どの方が布パンツで過ごされている。夜間のみ使用される方のポータブルトイレは使用の都度廃棄し、臭気などなく清潔に管理している。自然排便につながるよう、夕食時に発芽玄米食や三食時の汁物、必要に応じた水分補給が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事献立を配慮しながら、夕食には玄米ご飯を食べて頂いている。また、日常生活の中で散歩などを取り入れ体を動かす機会を作り、自然に排便が出るように心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の意向を確認しながら入浴回数や時間等希望に応じて、ゆっくり入って頂いている。また、気持ちよくお風呂に入って頂けるよう介護技術の研修を受ける機会がある。	数人で入れる大きさのひのき風呂や個浴が設けられ、基本的に週3回の支援を行っているが、毎日入られる方もおられるようである。回数や時間帯も希望に応じてゆっくりとした入浴支援に努めている。柚子湯は皮膚への刺激から控えた方が良い方もおられ、他の方には季節湯として支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンを把握し、情報共有することで安眠に向けた支援が出来ている。また入眠の時間も個々で異なり、寝具も使い慣れたものを持ち来られる方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、入居者が使用する服薬の目的や副作用などを理解しており、入居者一人一人が医師の指示通りに服薬が出来るよう支援し、症状の変化を確認している。また、必要に応じては、医療連携の看護師より指示を受けながら対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	暮らしの役割が自然発生的に生じるよう支援しつつ、常に自信が高まるような声掛けをしている。入居者の出来る事を認め、積極的に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	自由に外出の希望を伝えられるような雰囲気づくりと入居者の出掛けたい場所を会話の中からくみ取り、それらを立案し外出の機会をつくっている。	入居者が行きたい場所を伝えたり、外出したいという意欲を保てるよう声をかけ、雰囲気づくりを大切にしている。ホーム内での体操等よりも「外に出て花見をしましょうか」等の問いかけに、入居者は喜んで参加され、「畑作業や花見の方が入居者の体を動かしてくれる」と職員は日々の支援からの気づきを語っている。地域の行事(神社、五橋祭やどんどや等)への外出は入居者も楽しみにされている。盆・正月は節目として、家族へ確認を行い帰省や面会が行われている。	玄関には入居者が畑作業で掃く長靴や帽子が置かれ、季節に応じた関わりも聞かれた。今後も入居者が外出の意欲を保てるような職員の働きかけや雰囲気作りの継続に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人希望により、日常の金銭管理をして頂いている。金銭管理が難しい方においても、買い物に出掛けられる時には財布を持って頂き、購入された分の支払いをして頂くなど金銭管理能力維持に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの手紙が届くと、返信の援助や電話使用時の援助など日常的に利用できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を有しており、備品等についても家庭的なものを揃えている。入居者が過ごしやすいよう、和室やリビングなど自由に過ごせる場所を確保している。また、季節感が出るよう花を飾ったりしている。	法人内の一角に建つホームの玄関には季節の花苗が植えられたプランターやメダカを育てる水鉢が置かれ、来訪者や外出の際に入居者も楽しみにされている。安らぎの場所となるようホーム内の備品は努めて家庭的なものを配置し、和室(寒い時期は炬燵を準備)やリビングを中心にゆっくり自由に過ごせる様配慮しており、和室に置かれた仏壇の花の水替えを入居者もされている。ウッドデッキは日光浴や洗濯物干しの場としても活用され、洗濯物たたみの作業は入居者の出番としてリビングで取り組まれている。	職員の生き生きと業務にあたる姿は入居者や家族にとって安心や信頼にも繋がっていると思われる。居心地の良い空間の一つとして変わらぬ支援に期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が一人になったり、気の合った入居者同士で自由に過ごせるような居場所を確保している。(和室、リビング、居室など)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族へ自宅で使い慣れた馴染みの物の持ち込みを依頼している。一部の方には自宅で使用されていたものを持ち込み環境づくりを行っている。また、個別に応じて介護用品を適切に配置している。	使い勝手の良い広さの居室には洗面台が備わり、どの部屋からも緑の樹木が眺められ穏やかに過ごせる環境である。入居時に使い慣れた品などの持ち込みを依頼しており、寝具や衣類、小物(櫛・化粧品等)が置かれている。コロナ禍以前は寝具や衣類は季節に応じた入れ替えを家族がされていたが、現在は職員が中心に行っている。本人が好きな犬種のカレンダーが掲示され、中のページには本人や家族(孫などに至るまで)それぞれの誕生日が記入されており家族の思いが伝わってくる。また、自ら排泄チェックを記したノートが置かれた部屋も見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレのファンレストテーブルや浴室の構造や共用の手洗いや調理台の高さなど考慮している。また、屋外にも出やすいよう、手すりを設置している。		